vol.37
2019.04
H-SATT

農林水産省 近畿農政局（兵庫県拠点）

農政局だより@ひょうご

〒650-0024
神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎
TEL:078-331-5924　email:hyogo28_hsatt_kinki@.maff.go.jp

総合化事業計画を認定しました

　総合化事業計画は、六次産業化・地産地消法に基づき、農林漁業者等が農林水産物等の生産及びその加工又は販売を一体的に行う事業活動に関する計画のことです。
　農林漁業者等の所得の向上や農林漁業経営の改善を図ることを目的として国が認定を行っています。
　兵庫県における認定件数は、平成31年2月末現在で112件となっており、全国で北海道に次いで2番目に多い県となっています。

～ 株式会社NOUEN（朝来市）～

◆総合化事業の概要◆

　株式会社NOUENは、同社代表の出身地である朝来市で平成25年から地域特産品である岩津ねぎの生産を開始し、現在では岩津ねぎの生産面積は1.6haまで拡大するとともにひょうご推奨ブランドの認証も取得しています。
　また、水稲にも力を入れており、現在では作業受託も含め10haの規模で生産を行っています。
　平成31年3月末に認定を取得した総合化事業計画では、岩津ねぎの生産拡大と併せて、高級スーパー、飲食店、食品メーカーへの販売やインターネット販売に加え、岩津ねぎコロッケや岩津ねぎしゃぶしゃぶ鍋セットをはじめとした各種加工品の製造販売を行うこととしています。
　これらの取り組みにより農業収益の向上と新たな地域雇用の創出を目的としています。
　同社におかれては、研修生の受け入れやICT等の先進的な技術を活用した農業に取り組まれるなど、地域の中心的な農業経営者として今後の活躍が期待されています。

https://nou-en.com/

地域の自治会が中心となり進めた大区画化への道

姫路市夢前町宮置地区では、農地中間管理事業を活用した農地の大区画化が始まろうとしています。

同地区は東西を山林に囲まれ、夢前川が地区の中心を南下する中間農業地域で、農地面積は約28haあります。

他の地域同様に高齢化が進行していることもあり、平成20年頃には地区内の農業法人「(有)夢前夢工房（ゆめさきゆめこうぼう）」が地区内農地の過半以上を集積していました。

同地区では、昭和40年頃にほ場整備が行われましたが、施設の老朽化、また、高齢化により用水路の維持管理（溝掃除）などが困難となり、パイプラインなど水利施設の整備が課題となっていました。

（姫路市夢前町宮置地区風景）

助成を活用し施設整備を行うことが出来たとしても、地権者負担を求めることが厳しく、営農を行っている農業法人が費用負担することも厳しい状況でした。

（管理労力がかかる用水路）

そこで、地元負担を軽減するとともに、ほ場環境も整備し、大区画化により生産性を上げる農地中間管理事業を活用したほ場整備を行うこととなりましたが、その道のりは簡単ではなく、地域住民の合意を得るための苦労は一言で言い表せるものではなかったようです。

兵庫県拠点では、取り組み開始から地域の合意を得るに至るまでの経緯を同地区の自治会長と農業法人の代表からお話をお伺いして、その内容をホームページで紹介しています。

「農作業安全ポスターデザインコンテスト」の作品の募集中！

～ まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全 ～

近年、農作業死亡事故の発生件数が約300件以上で推移している中で、農作業事故防止に向けた対策を強化し、事故件数を減少に転じさせることが極めて重要な課題となっています。

このため、春の農作業安全確認運動の一環として、農作業安全に対する国民意識の醸成及び効果的な推進を図ることを目的として農作業安全ポスターデザインコンテストを開催します。

また、優秀な作品は、8月に開催予定の「秋の農作業安全確認運動推進会議」で表彰し、農林水産省で作成する秋の農作業安全確認運動のポスターデザインに採用します。

平成30年度入賞作品

農林水産大臣賞

生産局長賞

日本農業新聞賞

募集期間：2019年3月25日（月）～ 6月21日（金）

応募方法：実施要領を御確認の上、応募作品とともに、添付資料の応募用紙に必要事項を記載し、以下の応募先に郵送または電子メールにて御応募ください。

詳しくは☞ http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sizai/190325.html

キラリ☆現場にて

農業は、面白さを知ることが大切！

神戸市西区で、露地野菜中心に栽培されている富岡俊志さんにお話を伺いました。

幼少期から父が取り組んでいた農業に興味を持っていたので、平成15年に大学卒業後に家族と一緒に農業をするために実家に就農しました。

私の家は、江戸時代から続く農家で、現在は祖父･祖母･父・母と妻の6人で、西区内の約4haのほ場で、ほうれんそう・ねぎ・水稲を栽培しています。

ほうれんそうは祖父の代から栽培をはじめ、以降、父から私に続く主力の作物で、現在は約1haで4品種栽培しています。栽培方法については、祖父の代から培ってきた知識を基に、家族で話し合い、方向性を整理し、土壌に合う良い品種、悪い品種を見極めながら消費者に求められる商品を作ることを常に意識して栽培しています。品質の向上や作業の効率アップ等のため、私の代から堆肥を入れ、土作りも行っています。

出荷作業は、前日の午後2時頃から収穫・洗浄・結束し、当日の朝1時頃に作業を終え、当地から近い明石の市場に新鮮な状態で出荷しています。

農業は、5年・10年先が見えづらいので経営の面では不安があり、自然相手なので辛いこと、大変なこともありますが、それを上回る楽しさ、自然と接しながら仕事をする面白さがあることを、次の世代にも教えていきたいと考えています。

先代より引き継いだ行商による対面販売の拡大をめざして

丹波市で、水稲、露地野菜、白小豆や里芋及び野菜苗を栽培している岩本園芸の岩本望さんにお話を伺いました。

地元の高校で果樹の実習助手を務めた後、平成22年に家族経営の岩本園芸に就農しました。

現在は、私が中心となって施設で野菜の育苗を、ほかに水稲7ha、夏野菜から冬野菜等の露地野菜を少量多品目で1ha栽培しています。

野菜苗は、トマト、甘長とうがらし等夏野菜から、キャベツ等の冬野菜まで季節を通して育苗し、農業者へ販売。

また、収穫した米や野菜は、祖母が汽車で行商を行っていた頃から宝塚や川西等の阪神間の食料品店や消費者に直接販売しています。

数年前には、毎年自家採種しながら栽培している里芋がテレビ取材を受け、注目を浴び、里芋以外の米や野菜も販売拡大に繋がりました。

丹波白雪大納言生産組合が丹波地域の新たなブランド化をめざしている「丹波白雪大納言（白小豆）」の栽培にも取り組んでいます。

農業者の横のつながりの必要性や重要性を感じ、地域の同世代の若手農業者で構成する「丹波大空の会」に参加し、技術、経営の研鑽や生産性向上等の情報交換を行い、また、地域の行事にも積極的に参加しています。

今後は、農業生産工程管理に準じて取組み、品質の向上、農業経営の改善や効率化を図りたいと考えています。

あわせて、「行商」による対面販売をすることにより、生産者の顔が見えるという安心感を前面に出して、今後も「行商」を通じた交流を深め、販路の拡大に結びつけていきたいと考えています。

農林水産業 × 環境・技術 × SDGs

～　農山漁村からはじまるSDGs　～

SDGsについては、政府全体において「SDGsアクションプラン2019」が策定されており、我が国の国家戦略の主軸に据えられています。

農山漁村には、環境・経営の面で持続的な発展を可能とする再生可能エネルギーのポテンシャルやバイオマス、在来作物など様々な資源が存在し、農林漁業者の中には、気候変動の緩和や生物多様性の保全等の取り組みを日々の活動に組み込み、長年実践している方もおり、これらの恩恵は、都市住民を含め国民全体が受け取っています。

農林水産省としては、環境・技術分野における貢献が期待され、これらのアクションプラン等を踏まえ、農林水産・食品分野におけるSDGsについて環境・技術分野を中心に幅広い有識者からお話を伺い、そこから得た知見を元にWebサイトを開設しました。

SDGs　- 持続可能な開発目標 – とは

SDGsは、2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳の参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲット（達成基準）から構成されます。

それらは、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題を網羅しており、豊かさを追求しながら地球環境を守り、そして「誰一人取り残さない」ことを強調し、人々が人間らしく暮らしていくための社会的基盤を2030年までに達成することが目標とされています。

詳しくは http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/main.html

気候変動と農業技術国際シンポジウム

～ 地球規模で考える気候変動と農山漁村 ～

農林水産省では、地球温暖化防止や生物多様性保全に積極的に貢献していくため、より環境保全効果の高い農林水産活動の普及を推進するとともに、気候変動による農林水産業への影響に的確に対応するなど、農林水産分野における環境政策を総合的に推進しています。

この度、2019年5月13日（月）に滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールで、気候変動に対応する農業技術国際シンポジウム「地球規模で考える気候変動と農山漁村」を開催します。

詳しくは http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/kikouhendou/symposium/main.html

編集後記

満開の桜の中を通勤電車が抜ける時、公園の若葉が芽吹くなか出勤を急ぐ時、毎年、初出勤の日のことを思い出します。桜や若葉とその向こうの青空を見上げたとたんに、不安だった気持ちが、急に何かよいことが起こりそうな気持ちに変わり、頑張ろうと思えたものです。春は始まりの季節、今年もまた新たな気持ちで頑張りたいものです。　H

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL：078-331-5924　FAX：078-331-5177